

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2025.11.10-16

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

➤ 10日 月曜

ヨシュア



1:10 ヨシュアは民のつかさたちに命じた。
1:11 「宿営の中を巡って、民に命じなさい。
『食糧を準備しなさい。三日のうちに、あなたがたはこのヨルダン川を渡るからだ。あなたがたの神、【主】があなたがたに与えて所有させようとしておられる地を占領するために、あなたがたは進むのだ。』」

1:12 その一方で、ルベン人、ガド人、およびマナセの半部族にヨシュアは言った。

1:13 「【主】のしもべモーセがあなたがたに命じて、『あなたがたの神、【主】はあなたがたに安息を与え、この地を与えようとしておられる』と言ったことを思い出しなさい。

1:14 あなたがたの妻子たちと家畜は、モーセがあなたがたに与えた、このヨルダンの川向こうにとどまりなさい。しかし、あなたがたの勇士はみな、隊列を組み、あなたがたの兄弟たちより先に渡って行って、彼らを助けなければならない。

1:15 【主】があなたがたの兄弟たちにも、あなたがたと同様に安息を与え、彼らもあなたがたの神、【主】が与えようとしておられる地を所有したら、あなたがたは【主】のしもべモーセがあなたがたに与えた、このヨルダンの川向こう、日の出る方にある自分たちの所有の地に帰り、それを所有することができる。」

1:16 彼らはヨシュアに答えた。「あなたがたに命じたことは、何でも行います。あなたが遣わすところには、どこでも参ります。

1:17 私たちは、あらゆる点でモーセに聞き従ったように、あなたに聞き従います。どうかあなたの神、【主】が、モーセとともに

られたように、あなたとともにおられますように。

1:18 あなたの命令に逆らい、あなたが私たちに命じることばに聞き従わない者はみな、殺されなければなりません。あなたは、ただ強く雄々しくあってください。」

イスラエルの民はヨシュアを新しい指導者として、彼の支持に従いました。彼はモーセのような実績はありませんでしたが、主が彼を立てられたので、ヨシュアに従うということは主に従うことであつたからです。教会でも色々なイベントや活動によってリーダーになる人が存在します。誰が偉いというのではなく、それは主から与えられた役割です。

ヨシュアも主のみことばを聞き、従うことのゆえに15節のように希望を語ることができました。これがリーダーの資質です。どんな小さな働きものリーダーでも、人を励まして主のみことばを行おうという場合は、主との交わりが重要です。またそれゆえの希望による動機付けが大切なのです。

また民に関していうなら、そのようなリーダーに従うことが、その役割です。16節にあるように従うことができる人々がいることは、リーダーの存在にまさって重要で、主はそのような従順な人を求めておられます。そのような人は17～18節にあるように、リーダーをも励まして育てることもできるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 11日 火曜

ヨシュア



2:1 ヌンの子ヨシュアは、シティムから、ひそかに二人の者を偵察として遣わして言った。「さあ、あの地とエリコを見て来なさい。」彼らは行って、ラハブという名の遊女の家に入り、そこに泊まった。

2:2 ある人がエリコの王に、「イスラエル人の数名の男たちが今夜、この地を探ろうとして入って来ました」と告げた。

2:3 それで、エリコの王はラハブのところに人を遣わして言った。「おまえのところに来て、おまえの家に入った者たちを出せ。その者たちは、この地のすべてを探ろうとしてやって来たのだから。」

2:4 ところが、彼女はその二人をかくまって言った。「そうです。その人たちは私のところに来ました。でも、どこから来たのか、私は知りません。」

2:5 暗くなって門が閉じられるころ、その人たちは出て行きました。どこへ行ったのか、私は知りません。急いで彼らを追ってごらんください。追いつけるかもしれません。」

2:6 彼女は二人を屋上へ上がらせ、屋上に積んであった亜麻の茎の中におおい隠していた。

2:7 追っ手たちはヨルダン川の道をたどり、渡し場までその人たちを追って行った。門は、彼らを追う追っ手たちが出て行くと、すぐに閉じられた。

ラハブは神様のわざを聞いていました。それでイスラエルの神に従ったと思われませんが、おそらくそれだけでなく、エリコの王や人々の悪に嫌気がさしていたと想像できます。

彼女は遊女という不道徳とも理解される生活をしていましたが、それにも事情があったのでしょうか、心は純粋であったようです。主はその心をご覧に

なったのです。人をうわべでなく、その心で見ようでありたいと思います。

これはまさに後の時代になって、イエス様が遊女を受け入れて神の国を語られたことを想起させます。神の国の価値観で生きる私たちも、また教会もその価値観が問われます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 12日 水曜

ヨシュア



2:8 二人がまだ寝ないうちに、彼女は屋上の彼らのところへ上がり、

2:9 彼らに言った。「【主】がこの地をあなたがたに与えておられること、私たちがあなたがたに対する恐怖に襲われていること、そして、この地の住民がみな、あなたがたのために震えおののいていることを、私はよく知っています。

2:10 あなたがたがエジプトから出て来たとき、

【主】があなたがたのために葦の海の水を涸らされたこと、そして、あなたがたが、ヨルダンの川向こうにいたアモリ人の二人の王シホンとオグにしたこと、二人を聖絶したことを私たちは聞いたからです。

2:11 私たちは、それを聞いたとき心が萎えて、あなたがたのために、だれもが氣力を失ってしまいました。あなたがたの神、【主】は、上は天において、下は地において、神であられるからです。

2:12 今、【主】にかけて私に誓ってください。私はあなたがたに誠意を尽くしたのですから、あなたがたもまた、私の父の家に誠意を尽くし、私に確かなしるしを与え、

2:13 私の父、母、兄弟、姉妹、また、これに属するものをすべて生かして、私たちのいのちを死から救い出す、と誓ってください。」

2:14 二人は彼女に言った。「私たちはあなたがたに自分のいのちをかけて誓う。あなたがたが私たちのことをだれにも告げないなら、【主】が私たちにこの地を与えてくださるとき、あなたに誠意と真実を尽くそう。」

「エモリ人のふたりの王シホンとオグにしたこと」というのは主のみわざです。それは、悪しき性

質を持ち屈強な民であったその民に、イスラエルが勝利したということです。彼女の決断は単にイスラエルを助けたということだけではなく、命がけのものでした。自分の支配者に背くことになるからです。

主は彼女の信仰に答えて、後にイエス様の系図に入れてくださり、異邦のしかも遊女でも神の救いにあずかるということを示されたのです。主に従うということは決断が必要です。勇気をもって主を選び取り、滅びの行いから命の行いへの方向転換をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 13日 木曜

ヨシュア



2:15 そこで、ラハブは綱で窓から彼らをつり降ろした。彼女の家は城壁に建て込まれていて、彼女はその城壁の中に住んでいた。

2:16 彼女は二人に言った。「山地の方へ行ってください。追っ手たちがあなたがたに出くわすといけませんから。彼らが引き上げるまで、三日間そこに身を隠してください。その後で、あなたがたが行く道を行かれたらよいでしょう。」

2:17 二人は彼女に言った。「もしこのようにあなたが行かないなら、あなたが私たちに誓わせた、あなたへのこの誓いから私たちは解かれます。」

2:18 見なさい、私たちはこの地に入って来ます。私たちをつり降ろした窓に、この赤いひもを結び付けておきなさい。あなたの父、母、兄弟、そして、あなたの一族全員をあなたの家に集めておきなさい。

2:19 あなたの家の戸口から外に出る者がいれば、その人の血はその人自身の頭上に降りかかり、私たちに罪はありません。しかし、あなたと一緒に家の中にいる者のだれにでも手が下されたなら、その人の血は私たちの頭上に降りかかります。

2:20 だが、もしあなたが私たちの、このことをだれかに告げるなら、あなたが私たちに誓わせた、あなたへの誓いから私たちは解かれます。」

2:21 彼女は「おことばどおりにしましょう」と言い、二人を送り出した。彼らは去り、彼女は窓に赤いひもを結んだ。

2:22 彼らはそこを去って山地の方へ行き、追っ手たちが引き上げるまで、三日そこにと

どまった。追っ手たちは道中くまなく捜したが、彼らは見つからなかった。

2:23 二人は帰途についた。山地から下り、川を渡り、ヌンの子ヨシュアのところに来て、その身に起こったことをことごとく彼に話した。

2:24 彼らはヨシュアに言った。「【主】はあの地をことごとく私たちの手にお与えになりました。確かに、あの地の住民はみな、私たちのゆえに震えおののいています。」

ラハブはひもの赤い目印によって救われました。これはかつて神様がエジプトを打ったときに、イスラエルの家々が羊の血の赤い目印によって、救われたのと似ています。それはまさにイエス様の十字架の血によって、私たちが救われたことのひな型です。

イスラエルの勝利が決定していて「あの地の住民はみな私たちのゆえに震えおののいて」いるのと同じように、主の永遠の勝利は決定しており、サタンはおののいています。

救われていること、永遠のさばきを免れたこと、勝利者の側に入れられたことを感謝し安心しましょう。またラハブのように家族の救いを求めましょう。家族を「救いの家に集め」ましょう。時は迫っているかもしれません。いつまでもチャンスがあるかどうかは分らないのですから。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 金曜

ヨシュア



3:1 ヨシュアは翌朝早く起き、すべてのイスラエルの子らとともにシティムを旅立ち、ヨルダン川のところまで来て、それを渡る前にそこに泊まった。

3:2 三日後、つかさたちは宿営の中を巡り、

3:3 民に命じた。「あなたがたの神、【主】の契約の箱を見、さらにレビ人の祭司たちがそれを担いでいるのを見たら、自分のいる場所を出発して、その後を進みなさい。

3:4 あなたがたが行くべき道を知るためである。あなたがたは今まで、この道を通ったことがないからだ。ただし、あなたがたと箱の間に二千キュビトほどの距離をおけ。箱に近づいてはならない。」

3:5 ヨシュアは民に言った。「あなたがたは自らを聖別しなさい。明日、【主】があなたがたのただ中で不思議を行われるから。」

3:6 ヨシュアは祭司たちに「契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って渡りなさい」と命じた。そこで彼らは契約の箱を担ぎ、民の先頭に立って進んだ。

3:7 【主】はヨシュアに告げられた。「今日から全イスラエルの目の前で、わたしはあなたを大いなる者とする。わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを彼らが知るためである。

3:8 あなたは契約の箱を担ぐ祭司たちに『ヨルダン川の水際に来たら、ヨルダン川の中に立ち続けよ』と命じよ。」

奴隷状態から救われたイスラエルが、約束の地に入ろうとしています。そのためにはヨルダン川を渡らなければならない、そのためには信仰の決断が必要でした。

そこには救いの主がともにおられるという約束があり、彼らの守りはまさにその主であったのです。それゆえ「契約の箱をかつぎ、民の先頭に立って」行くことが必要だったのです。

私たちクリスチャンも死と奴隷の状態から救われた者で、約束の地を目指しているものです。それは終末的には栄化であり、地上においては聖化です。すなわち御霊の実を結ぶ人格となることです。

それには、このヨルダン川の出来事と同じように、主の契約すなわち救いの約束が何よりも先立つのです。その確証があるなら私たちは、「今まで、この道を通ったことがない」というような未知の領域でも、聖霊の実を結ぶことができるのです。

救われていること、すなわち主の契約があることを確信して、また主の臨在があることで安心して、未知の領域に挑戦していきましょう。その際の勝利は、どんな中にあっても聖なる実を結ぶ人格となることです。それが勝利であり約束の地を、この地上で手に入れるということです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 土曜

ヨシュア



3:9 ヨシュアはイスラエルの子らに言った。「ここに来て、あなたがたの神、【主】のこたばを聞きなさい。」

3:10 ヨシュアは言った。「生ける神があなたがたの中にいて、自分たちの前からカナン人、ヒッタイト人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、アモリ人、エブス人を必ず追い払われることを、あなたがたは次のことで知るようになる。」

3:11 見よ。全地の主の契約の箱が、あなたがたの先頭に立ってヨルダン川を渡ろうとしている。

3:12 今、部族ごとに一人ずつ、イスラエルの部族から十二人を取りなさい。

3:13 全地の主である【主】の箱を担ぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまるとき、ヨルダン川の水は、川上から流れ下る水がせき止められ、一つの堰となって立ち止まる。」

3:14 民がヨルダン川を渡ろうとして彼らの天幕から出発したとき、契約の箱を担ぐ祭司たちは民の先頭にいた。

3:15 箱を担ぐ者たちがヨルダン川まで来たとき、ヨルダン川は刈り入れの期間中で、どこ

3:16 川上から流れ下る水が立ち止まった。一つの堰が、はるかかなた、ツアレタンのそばにある町アダムで立ち上がり、アラバの海、すなわち塩の海へ流れ下る水は完全にせき止められて、民はエリコに面したところを渡った。

3:17 【主】の契約の箱を担ぐ祭司たちは、ヨ

ルダン川の真ん中の乾いたところにしっかりと立ち止まった。イスラエル全体は乾いたところを渡り、ついに民全員がヨルダン川を渡り終えた。

「【主】の箱を担ぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまるとき、ヨルダン川の水は、川上から流れ下る水がせき止められ」とあります。紅海を渡るときは初めに海が分かれたのですが、ヨルダン川では先に足が入るのです。

これは救いときよめの違いを表します。救いときは十字架の贖いが全て整っていて、ただ受け入れれば良いのです。一方きよめは、自分から困難の中に身を投じていく信仰が必要なのです。それは悔い改めであり、人生をかけた祈りであったり、またはリスクをかけての従いであったりします。

ただしそのような中にも契約の箱が先立っていたように、私たちには主の救いの契約がありますから、安心してよいのです。主の愛を信じて一歩を踏み出すなら、川がせき止められたように、主によって状況が変えられ、素晴らしいことが起こるのです。

信仰をもって、それぞれに主から与えられたヨルダン川を渡りましょう。主を信じて一歩を踏み出しましょう。主の御心ならばだいじょうぶです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



- 4:1 民全員がヨルダン川を渡り終えると、
【主】はヨシュアに告げられた。
4:2 「民の中から部族ごとに一人ずつ十二人を取り、
4:3 その者たちに命じよ。『ヨルダン川の真ん中、祭司たちが足をしかりとどめたその場所から十二の石を取り、それらを携えて渡り、あなたがたが今夜泊まる宿営地に据えよ。』」
4:4 そこでヨシュアは、イスラエルの子らの中から部族ごとに一人ずつ、あらかじめ任命しておいた十二人を呼び出した。
4:5 ヨシュアは彼らに言った。「あなたがたの神、【主】の箱の前、ヨルダン川の真ん中へ渡って行き、イスラエルの子らの部族の数に合わせて各自が石を一つ、その肩に担ぎなさい。
4:6 それがあなたがたの中で、しるしとなるようにするためだ。後になって、あなたがたの子どもたちが『この石はどういうものなのですか』と尋ねたとき、
4:7 あなたがたは彼らにこう言いなさい。
『ヨルダン川の水が【主】の契約の箱の前でせき止められたのだ。箱がヨルダン川を渡るとき、ヨルダン川の水はせき止められた。この石はイスラエルの子らにとって永久に記念となるのだ。』」
4:8 イスラエルの子らはヨシュアが命じたとおりにした。【主】がヨシュアに告げられたとおり、イスラエルの部族の数に合わせて、ヨルダン川の真ん中から十二の石を取り、宿営地に携えて行って、そこに据えた。
4:9 これらの十二の石はヨルダン川の真ん中

で、契約の箱を担いだ祭司たちが足をとどめた場所にあったもので、ヨシュアがそれらを積み上げたのである。それらは今日までそこにある。

4:10 箱を担ぐ祭司たちは、民に告げるようにと【主】がヨシュアに命じられたことがすべて終わるまで、ヨルダン川の真ん中に立ち続けていた。すべてモーセがヨシュアに命じたとおりである。その間に民は急いで渡った。

4:11 民全員が渡り終えた後、民が見ている前で【主】の箱と祭司たちが渡った。

4:12 ルベン人とガド人と、マナセの半部族は、モーセが彼らに告げたとおり、隊列を組んでイスラエルの子らの先頭を進んで行った。

4:13 このようにして、武装した約四万の軍勢は【主】の前を、戦いのためにエリコの草原へと進んで行った。

4:14 その日、【主】は全イスラエルの目の前で、ヨシュアを大いなる者とされた。それで彼らは、モーセを恐れたように、ヨシュアをその一生の間、恐れた。

川の中の石は丸くなっている、他とは違う特徴があります。背負うほどの大きな石が12個も積まれていれば、目立つでしょう。それば川の中から拾わなくてはならないのですから、川がせき止められるという奇蹟がなければ不可能なことです。主はこのような記念の石によって、主のみわざを記憶させました。

私たちにとっても、主のみわざを記念することは大切です。それは奇蹟のように、人間ではできないことであり、主の主権と愛の表れです。救い、きよめ、成長、勝利などの主の恵をみわざを忘れないようにしましょう。

「武装した約四万の軍勢が…進んで行った。」とあります。前進もまた戦いなのです。困難が待ち受けていることでしょうが、民がひるまなかったのは、主が川を分けてこの道を作ってくださったという確信によるものです。

主のみわざを忘れずに、感謝することは前進の力であり、勝利への確信です。主への感謝を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

